

健康 豆知識



煙草とアルツハイマー病

愛知淑徳大学健康医療科学部 教授

愛知淑徳大学健康相談室 室長

愛知淑徳大学クリニック 糖尿病内科 医師

井口 昭久

私は数年前までは煙草を吸っていた。

「煙草は認知症の予防になる」という学説が密かな支えであった。

神経伝達物質としてアセチルコリンが発見されたのは20世紀の大発見であった。

脳内に不足するとアルツハイマー病になり大量に投与すると猛毒になる。サリンも認知症の薬もアセチルコリンを増やす作用を持つている。大量では毒で少量では薬になる。

レセプターはコリン作動性とニコチン作動性の二つのタイプがある。

煙草の主な成分はニコチンである。

「ニコチンは脳内に作用してアルツハイマー病を予防するか」という命題に対してJ-Tと一部の学者は賛成である。

たしかにアルツハイマー病の患者を調べてみると煙草を吸う人は少ないという結果が出ていた。

更に研究を進めると「タバコを吸う人はアルツハイマーになるまで生きていない」ことが分かった。

今では煙草はアルツハイマー病の危険因子であると考えられている。

私は煙草を止めた。